

望むものはちがっても、命がけて何かを守りたい、
 勝ちとりたいと思うことがあります。
 そしてその心を貫くために、かけがえのないものを失うことがあります。
 もしかしたらそれは、自分自身の命であるかもしれません。
 あなただったら、そんな時の心境を、
 どんなふうにからだて表現するでしょうか……



「カレーの市民」の中で
 あなたが共感をおぼえるのは、
 どの人物ですか？
 6人の中からひとりを選んで、
 スケッチをしてみましょう。



彫刻作品は、
 どの方向から見なければならぬという
 きまりはありません。
 彫刻のまわりを自由にまわって、
 自分の視点をさがしてみましょう。



情熱の彫刻家、 オーギュスト・ロダン (1840-1917)

ロダンは、フランスに生まれた彫刻家です。
 〈カレーの市民〉は、1884年、ロダンが44歳の
 ときに、カレー市からの依頼によって制作をは
 じめた作品です。当時の人々は、勇敢に死に
 たちむかうカレーの市民像が表現されることを
 期待していましたが、ロダンが表現したのは、
 生と死の間にたたされ苦悩の姿をあらわにした、
 カレーの市民たちでした。
 ロダンの作品は、周囲から大変な非難をあびま
 したが、彼自身の作品への思い入れは強く、
 最後まで自分の意志を曲げることはありません
 でした。実際に作品がしかるべき場所に置か
 れたのは1924年、ロダンがなくなってから、実
 に7年も後のことだったのです。

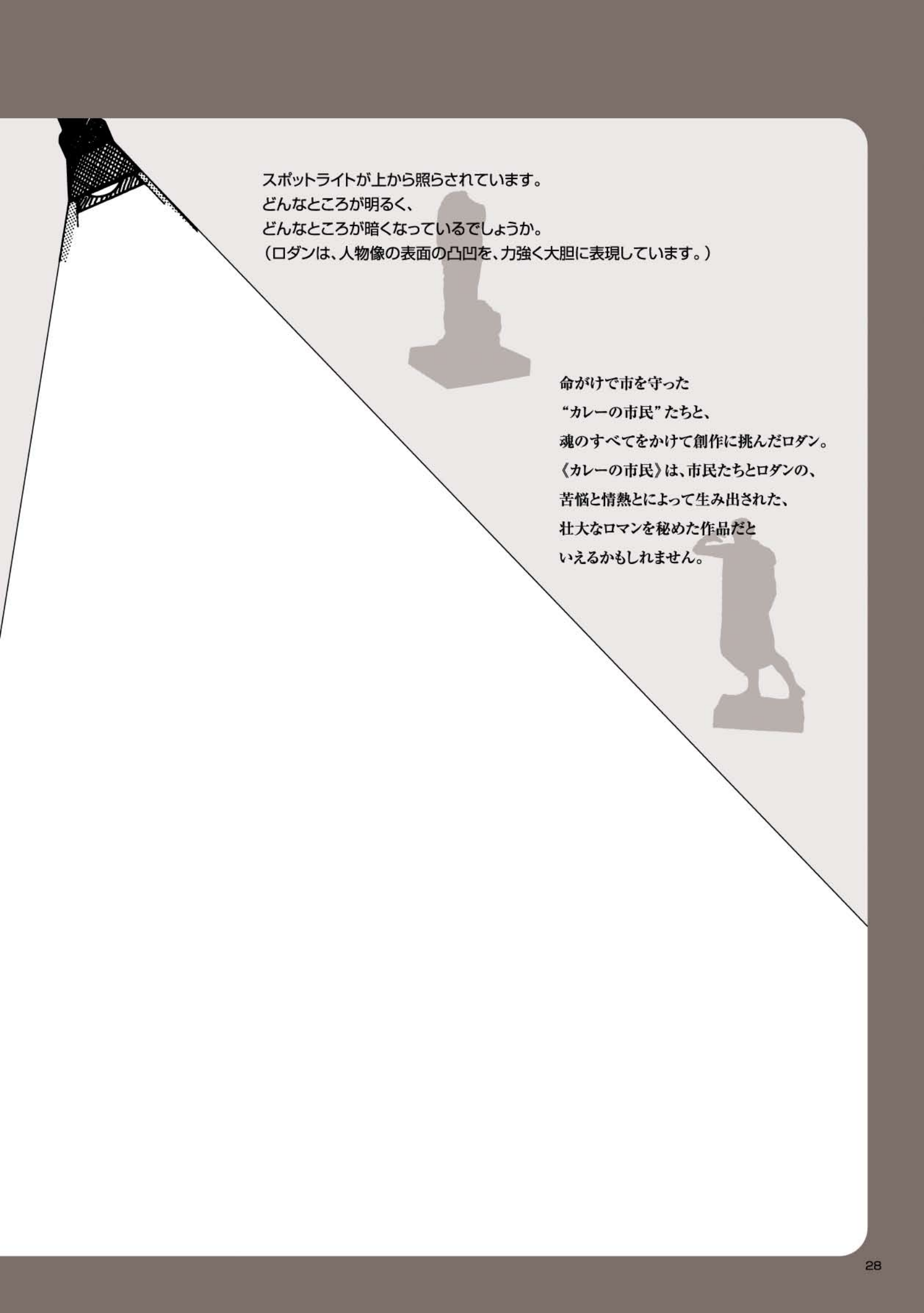


地図の中の番号で
 答えてみましょう。

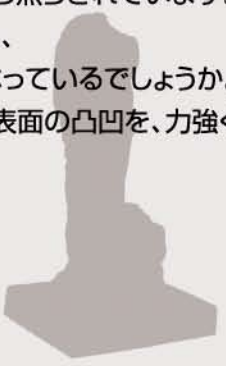
- A. イギリス軍が攻めこんだ
 カレーという町はどこでしょうか？
 ()
- B. ロダンが生まれた
 パリという街はどこでしょうか？
 ()



(こたえは29ページの下)



スポットライトが上から照らされています。
どんなところが明るく、
どんなところが暗くなっているでしょうか。
(ロダンは、人物像の表面の凸凹を、力強く大胆に表現しています。)



命がけで市を守った
“カレーの市民”たちと、
魂のすべてをかけて創作に挑んだロダン。
《カレーの市民》は、市民たちとロダンの、
苦悩と情熱によって生み出された、
壮大なロマンを秘めた作品だと
いえるかもしれません。

